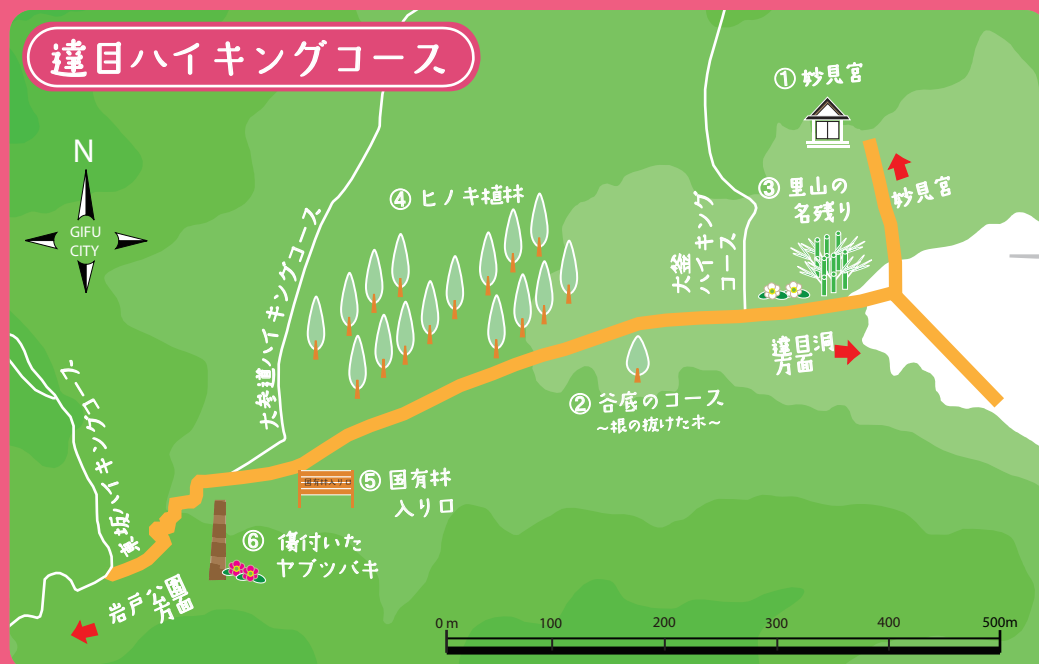


達目(だちぼく) ハイキングコースを歩く。



距離：約 800 m
所要時間：約 30分
植物お楽しみレベル



歴史お楽しみレベル



ハイキングレベル



(東坂ハイキングコースに
つながる緩やかな山道)

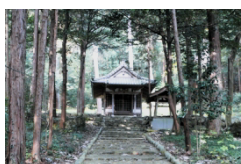
登山道入り口：

達目洞より

達目洞と岩戸公園を結ぶ平坦な散策路で東坂ハイキングコースに接続します。
コースの東側は達目洞を通り、散策路を進むと竹林が多くかつて里山としての利用され
た名残りが見られます。
西方面に登山道を進むと木々の発達やシダなども多く見るができます。

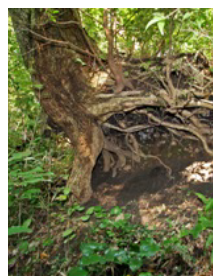
COURSE GUIDE

達目洞の妙見宮 ①



達目洞は、武芸の達人であった臼井岩入が1659年に家を構え、周りに道場や妙見宮を建立しました。その時に原野だった達目洞を開墾し、現在もある逆川や田畑の整備をしたと伝えられています。その後、岩入は金華山一帯の森林と鳥獣保護を尾張藩から任されました。

谷底のハイキングコース ②



達目ハイキングコースは、緩やかな洞地形の谷底、河川敷を利用したコースといえます。そのため大雨の翌日には、川のように水が流れます。そのためコースにある樹木も雨水に侵食され周辺樹林より一段低いところにあり、雨に洗掘され根がむき出しになっている樹木も見られます。

里山の名残り～竹林・お茶の木～ ③



達目ハイキングコースには、里山の痕跡が色濃く残っています。コースの入り口付近では、お茶の木や竹林がそれにあたります。現在、自生しているお茶の木は、昔田んぼや畑などの脇に植えられていたと言われているし、竹は材として生活に活かされています。

ヒノキ植林 ④



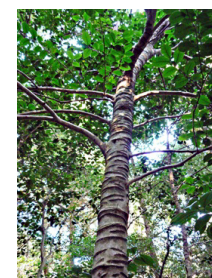
金華山では、山のあちこちでヒノキ植林を目にすることができます。場所によっては、植林後の間伐や枝打ちといった手入れがされていないため、細くやせています。放置された植林は、土壌保全や生態系にも影響を及ぼします。植林地の管理は、自然と共生する上でとても重要な課題です。

ツブラジの森～国有林入口～ ⑤



登山道入り口から続く平坦な道の終点(国有林入口)あたりからツブラジの大木が目立ち始めます。それまでの里山として活用されていた所と国有林の入口では植生も大きく変わります。国有林の森は人の手がほとんど入っていないため常緑広葉樹が多く、森全体が暗くなっています。

ヤブツバキの樹皮の傷 ⑥



金華山のヤブツバキは、写真のような線状の傷がみられます。この傷はタイワンリスの仕業で、タイワンリスが樹皮を食べるためこのような傷が付きまします。金華山では、タイワンリスの他にもイノシシのエサを探して地面を掘り返した穴や泥浴び場、テンの糞など野生動物の痕跡を見ることができます。

くわしくは裏面へ

達目ハイキングコースの植物の移り変わり



達目ハイキングコースは、達目洞から東坂ハイキングコースにつながる緩やかな登山道です。

達目洞付近では、竹林が多く広がりお茶の木やマンリョウが見られ、昔田や畑・里山として利用されていたことがわかります。里山として活用されていたころは、達目洞の登山道入り口付近は明るく人の入れる森が広がっていたと言われていました。

現在、登るにつれ里山の風景から少しずつアラカシ、ツブラジイなどの常緑広葉樹の森へと変わっていきます。常緑広葉樹の森では、光が差さず周りの木との間隔が狭いため、木が枝を張ることができません。そのため、植林されたヒノキの多くは、細く曲がっています。また、この付近では下草がほとんど生え無いため小動物の食物が少ないため、小動物達は達目洞などに下りてくると考えられます。

金華山でも、人手があまり入らない部分と人に活用されてきた里山の部分とを比較すると様々な違いが見えてきます。

木の根の張り方の違い

木の根の張り方には、根を深く張る「深根性(しんこんせい)」と浅く張る「浅根性(せんこんせい)」があります。

スギの根の張り方を基準に考えると、ヒノキは浅く、コナラは深いといわれています。

金華山では、ツブラジイの板根や岩山に捕まるように成長した根など様々な根の姿をみることができます。



国有林入り口にある4本のヒノキ・・・

国有林の入り口の看板があるあたりに、4本のヒノキがあります。

「柱などの材として使うために育てるには、どの木を間伐し、どの木を残すか？」を考えてみましょう。

間伐の目的によって異なりますが、材として残すにはまっすぐ成長し他のものに比べ樹高が大きく、上部の枝や葉が発達し光をよく受けており競争力が高いと思われる木を選びます。金華山のヒノキは、曲がっていたり細かったりするためほとんど材として使えません。材を生み出す山と金華山のにはどのような違いがあるでしょう？

金華山で見られる動物の痕跡？

昼間の金華山からはあまり想像が付きませんが、金華山には様々な動物が生息しています。多くの動物が夜行性のため昼間に見ることはまれですが、しかし昼間でも動物達がいた痕跡がはっきりと残っています。

例えば、登山道の道の真ん中で動物のフンを見つけることがあります。これは、小動物が犬のマーキングと同じように、縄張りの誇示と道標として行なうといわれています。その他にもイノシシの水浴び場や獣道は金華山では多く見ることができます。



＜イノシシの水浴び場＞